

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年10月31日（火） 午後2時から3時40分まで
場 所	金沢交流センター
出席人数	(1) 市 民 15人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計21人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(質問) (金沢学区) この懇談会でやり取りした内容は、どのような扱いになるのか。</p> <p>(事務局) いただいた御意見は、検討委員会にも報告し、検討に反映させる。 懇談会の内容は、要約してホームページに公開する。</p> <p>(質問) (金沢学区) 今までやってきたことは、ホームページに載っているのか。</p> <p>(事務局) 今年1月に行ったものは掲載している。今回は、全部の回が終了した後、整理してホームページで公開する予定。 検討委員会での検討の様子やアンケートの結果もホームページに公開しているの御覧いただきたい。</p> <p>(意見) (金沢学区) 記録が取りにくいので、会場に机を用意してほしい。 10月16日の懇談会に出席した。説明を聞いて考えたことを述べる。 人口統計は確度の高い予測ができる（出されている予測はほぼ正確）。その予測に従って早めの対策が必要だ。産業との関連にも配慮が必要。また、財政の視点が大切だ。私（わたくし）の立場だけの主張はやめよう、広く役立つような提言をしようということだ。 私は、幼稚園・小学校・中学校の縦統合をしてはどうかと考えている。学校は空き教室だらけだ。なぜ放置してきたのか。行政の怠慢、優柔不断だ。空き教室が増えだした時に適正配置が必要だと気付くべきだった。 寂れるような町に住んだのは、自分も含めて自己責任だ。 少子化対策には予算が必要だ。予算捻出のためにも、縦統合をする、市議会議員の定数と報酬を削減する。行政の上に立つ方々に痛みを感じてもらわなければどうしようもない。空き学校、空き教室を民間に貸し出す、体育館を地域の健康増進に活用し、医療費の削減につなげる。以上を提言するので参考にしてほしい。</p> <p>(事務局) 次回から机を準備する。配慮が足りず申し訳なかった。</p>

いただいた御意見は、今後の検討に生かしていきたい。

(意見) (金沢学区)

地域懇談会で出た意見に対しては、回答も併せてホームページに公開してほしい。

(教育長)

行政として答えられる部分とすぐには答えが出ない部分もある。持ち帰って担当課にも伝える。

(意見) (金沢学区)

担当課も明記してほしい。

児童生徒数の表 (資料 2、6 ページ) には、学校創立当時の学級数、児童生徒数を入れてほしい。推移を知りたい。

(事務局)

具体的な計画策定の段階で、学校ごとのデータはお示ししたい。今後、検討に必要なデータを精査していく。

(意見) (金沢学区)

ぐずぐずしてられない。子どもたちは確実に減っていく。空き教室が増えてきたときに気付くべきだった。使っていない教室がたくさんある。

(教育長)

学級の人数の基準を弾力的に運用する(*)ことで、学級数が増えている。

また、特別教室の需要もあり、教室が余っているということはない。

いろいろなデータを見ながら、共に考えていきましょうということに異論はない。

(*) 小学校の学級人数の基準は、1年生は平成23年度から、2年生は平成28年度から、40人から35人になっているので、36~40人の場合、以前は1学級だったが、現在は2学級になる。

また、1つの学年に36人以上の学級が3学級以上ある場合、1学級を増設しているので、同じ人数でも学級数が増えた学校がある。

(質問) (金沢学区)

地域の中で、台原中は統合されると何度も聞いている。統合されるなら、それまでのスケジュールを教えてください。

(事務局)

平成30年4月から1年間をかけて、それぞれの学校について、どのような対応をしていくかを検討していく。対応の仕方にはいろいろあると思う。現時点で固まったものはない。いろいろな地域で噂が出ているが、根拠のあるものではない。

平成31年3月に計画ができれば、すぐに4月に統合されるわけではない。実際の統合までに検討しなければならないことがいろいろある。仮に、最初に着手する地区であっても、4月以降に地域に入って説明することから始める。

不確実な情報は出たくない。ひとつひとつ決めた上で公表していきたい。

(教育部長)

どこをどうするかは、本当に決まっていない。

何の基準もなく学校をまとめることはできないので、目安を作っている。

今回お示ししている基本方針がそれである。学校をまとめるに当たっては、コミュニティなど付随する問題を解決していかないとできない。

学校の統合については、他市の事例でも6～7年かかっている。計画通りになるかどうか分からない。手続きを踏みながら進めていくことになる。少なくともここ2～3年で学校がなくなることはない。

(質問) (金沢学区)

台原中学区は、水木小学区と金沢小学区が混在しているので、台原中がなくなると聞いて、初めから水木小に入学してしまい、金沢小の子どもが減ってしまっている。

今は、検討の検討(台原中の統合が検討されている訳ではなく、学校統合を含め、どうするかを検討している)段階であることを周知する方法はないか。どこに行っても「台原中はなくなるんだよね」と言われると、子どもも落ち着かなくなる。学校の先生から聞いたという子どももいる。

(教育部長)

懇談会で聞いていただければ、このような段階だ(統廃合は決まっていない)と御理解いただけたらと思う。参加していただいた方からも周りの方に伝えていただきたい。

噂を止めることは難しいが、学校(教職員)に対する周知は教育委員会から行う。

(事務局)

適正配置の検討段階については、学校長会で市立学校の全校長に周知している。次回(11月4日)の学校長会でも改めて周知する。

(意見) (金沢学区)

基準を見ると、台原中は満たしていないのでなくなると早合点する子どもや親御さんもいると思うので、それを加味して周知してほしい。

(教育部長)

検討の段階であり、まだ何も決まっていない。また、基準どおりに整理できるかと言えば、全てをそのとおりににはできないだろう。まずは、目安を出さないと話が進まないということだ。

(教育長)

子どもたちが動揺してしまうのは非常に心苦しく、申し訳ない。教職員には正確な情報を伝えていく。

現在学校に通っている子どもたちのことも大切に思っている。一方で、将来のことを考えたときに、どうしたらよいのかを考え始めた。

台原中、滑川中は比較的新しい学校で耐震性があったので、改修はしなかった。そのことで、噂になってしまったのかもしれない。

(質問) (金沢学区)

学校は自由に選べるのか。

市は、いろいろ言っているけど、ある日、変えてしまう。信用しない方がよい。自分で決めなければならない。

(教育長)

それでも、平成31年4月に台原中がなくなるということはない。

(事務局)

指定の学校を変えることについては、指定学校変更の制度があり、一定の理由がある場合は、申請に基づいて教育委員会が許可をしている。

例えば、通学上の安全性や利便性、残念ながら、いじめなどがあった場合、指定の学校に希望する部活動がない場合など。

(質問) (金沢学区)

先生の数が少ないと思う。校長先生や教頭先生が授業をしている。職員室に行っても、事務の方以外はだれもいない。先生を増やすことはできないか。

(事務局)

年度途中で療休となった先生や長期研修に行かれる先生がいる場合、補充の講師を充てるが、なかなか見つからない。他の市町とも連携を取っているが見つからない。努力している。

(意見) (金沢学区)

何かあったら対応できるのか心配になる。ぜひ、お願いしたい。

(意見) (金沢学区)

学校がなくなる話になると、コミュニティがなくなるから困るというが、コミュニティは、分かり易く言うと高齢者の集まり。子どもたちを優先に考えてほしい。子どもたちが、どうすれば良い学校生活を送れるかを考えていくことが、我々の世代(大人)の責任だと思う。若い世代を大切にしなければならない。

(事務局)

10年後、20年後の子どもたちも含めて、子どもたちを第一に考えていくが、地域の方々には、学校に深くかかわっていただいている。統合ということになったとしても、その後も学校に協力していただかなければならない。

(意見) (金沢学区)

コミュニティ組織の在り方は、学校とは切り離して考えなければならないと思っている。コミュニティ推進協議会でも話は出ている。

(教育部長)

学校運営協議会制度になると、地域との関わりはさらに深くなる。学校とコミュニティの関係はこれまでどおり維持していかなくてはならない。その時にコミュニティの形態がどうあるべきかを考えていかなくてはならない。いろいろな思いがあると思うので、話し合いが必要だ。

(意見) (金沢学区)

私の言いたいことは、お互いにエゴはやめようということだ。

日立市の場合は企業の影響も大きいので、企業との連携も念頭に置いてほしい。

(意見) (金沢学区)

高齢者の教育力は大きい。高齢者と子どもが共に活動できたらよい。週に1回くらい定期的にできないか。

(教育部長)

昔は日常生活の中でできていたこと。学校にもカリキュラムがあるので定期的にはできないが、行事としての取組はできると思う。

(意見) (金沢学区)

三世代で生活している家からは、子どもの元気な声が聞こえてくる。親子だけで暮らしている家は静かだ。

(質問) (金沢学区)

水木小にはコミュニティルームがあると聞いているが、どのように使われているのか。

(事務局)

使い方は自由と聞いている。地域の方のイベントの打ち合わせとか。水木小ではないが、地域懇談会でも使わせていただいた。

(質問) (金沢学区)

台原中が統合となった場合、大久保中か泉丘中となると思うが、スクールバスを出していただくことはできるか。

(事務局)

基本は、歩いて通える範囲で検討したいと考えている。他市町村では、路線バスの料金を補助しているところもある。必要によってスクールバスや路線バス、BRTなどいろいろな組み合わせがあると思う。

(教育部長)

留意事項にもあるように、通学の安全性は念頭に置いている。

(教育長)

御意見は、スクールバスがよいと考えてのことか。

(意見) (金沢学区)

泉丘中に歩いて行けない距離ではないが、台原中が近い人も多くいると思う。学校が近いから家を買った人もいるだろう。スクールバスが出るなら、大久保中や泉丘中に振り分けられても大丈夫かなと思う。自転車通学が危ないと思う人もいるだろう。路線バスでは学校に間に合わないので、学校専用バスとして他の人に乗られない方がよいと思う。(停車回数が増えることで、より時間がかかってしまう。)

(意見) (金沢学区)

台原中ができる前は、金沢団地から泉丘中に通っていた。部活動の後などは疲れて歩けないので、保護者が迎えに行くことも多かった。

(事務局)

市内には自転車通学している中学校もあり、約120人いる。交通事情もあるので全校では難しい。小学生では、2.8kmを歩いている子どももいる。通学の方法などは、基本方針の留意事項の中で考えていきたい。

小中一貫校としてまとめるという考えもあるが、人数が少ない小中学校をまとめても小規模化の問題は解決しない。いくつかの学校を集約したうえで一貫校ということになればスケールメリットも出る。市内に適所があれば検討して行きたい。

(意見) (金沢学区)

(学校の統合は) 推計上はあり得ること。今のうちから検討しなければ

ならない。公表・非公表は別として、行政は腹案として持っていなければならない。

(事務局)

決まった時点で、早期にお知らせしていきたい。シミュレーションは必要だが、案そのものは、密室の中で決めるようなことはしない。

(質問) (金沢学区)

計画が出された時には、どの程度の人に参加できるのか。学校に P T A が集まっての説明になるのか。今回のようなやり取りになるのか。

(事務局)

計画の素案をお示しするときは、小学校などの小さな単位で説明をしていきたい。多くの方に来ていただきたい。

(意見) (金沢学区)

保護者が参加しやすい説明会にしてほしい。仕事がある人などは、平日の昼間は出られない。

(事務局)

前回の懇談会の反省も踏まえて、平日の昼間、夜間、休日などに開催時間を設定したが、それでも、来られない人はいる。次回に生かしていきたい。

(教育部長)

計画を進めていく段階になったら、地域の中に協議会のような組織を作って話し合っていきたい。

(質問) (金沢学区)

学校給食は、戦後の栄養不足を補うために始められたものであると思うが、現在でも続けている目的は何か。

(教育部長)

現在も子どもたちの栄養確保が目的である。

毎日弁当を持たせられる家庭ばかりはない。そのようなことでも差別(いじめ)をうける。

(意見) (金沢学区)

母親でも父親でもいいが、弁当を作った方がよい。弁当の効果は大きい。給食に関わる業者を保護するためではないのか。

(意見) (金沢学区)

同じ場所で同じものを食べるという良さもある。働いている女性のためにも、給食があることはありがたいのではないか。

(質問) (金沢学区)

「弁当を持ってきてもいい」ということはできないか。

(意見) (金沢学区)

学校では「お弁当の日」もある。年間に数回ではあるが、親子で「食」について考える授業などもある。給食はあった方が良くと思う。

(意見) (金沢学区)

中学生になると、弁当のやり取り程度しか親子のコミュニケーションがないと思う。

以上

